

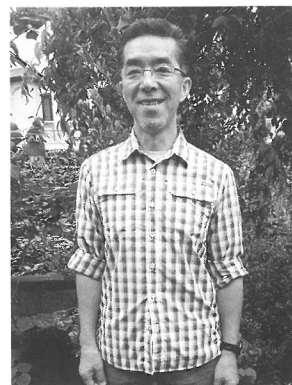


を加味した個別的な学習や、学年の学級への参加を進めることになりました。また、多様な集団活動の機会をつくっていかうということ、学部を越えたり重復障害の子どもたちの授業やとりくみもおこなっていました。それまで大人とのマンツールの関わりから、子ども同士の間わりが広がり、共通の活動、生活体験を通して、自分から伝えようとする気持ちや通じ合える関係が広がってきました。学級づくりは、教師集団づくりにもつ

職場・集団づくりの要としての 中堅職員へのエール

～わたしの体験的職場・職員集団づくり論

全障研埼玉支部成人期サークル 細野浩一



「主任をおろしてください。私にはむりです」。その年、生活施設の女性棟の主任に就いてもらっていたAさんがヒアリングのときに、そう訴えてきました。開設時から生え抜きて10年近く、障害のある仲間にもやさしくいねいに接し、同僚の職員からも信頼されています。職員の入れ替わりも多く、シフト制で現場の支援体制をいかに築いていくか、なにか起こったときにどう対応していくかなどの責任に加え、二人のお子さんの子育てにも手を抜きたくない、でもやりきれないジレンマがAさんを追い込んでいました。

障害者自立支援法による常勤換算方式と日払い方式の導入、及びこの間の度重なる成果主義による報酬改定によって障害福祉の現場はかつてないきびしい状況におかれています。とりわけ、現場のとりくみのまとめ役でもある中堅職員にかかる精神的・物理的負担はおおきなものになっていきます。

こうした現場のきびしさがあるからこそ、障害のある仲間の抱える困難や発達の理解を深め、実践をしていく上での苦労や喜びを共有していく職場づくり、職員集団づくりが求められています。その

なかで、障害のある人や家族のねがいや思いに応えていこうとする初心を持ち続けてほしい。福祉労働としてのやりがいをみだしてほしいと思っています。

職員も集団で育てよう

私が障害のある人の作業所づくりに関わるきっかけは、ろう学校でろう重複障害とよばれる子どもたちの教育に携わり、卒業後の進路・働く場づくりにとりくんだことからでした。1987年に関東で初のろう重複障害者の共同作業所「どんぐりの家」を開設し、1994年に退職して福祉現場に身を置いてきました。

私がろう学校に赴任した当時すでに重複学級が認可され、聴覚の他、知的などの重複障害のある子が在籍していました。それぞれ学年に所属し、教科によって取り出して個別指導をおこなっていました。

小学部に自閉性の重度知的障害のあるRくんが入学するのを契機に、小学部の重複学級の担当教員で議論を重ね、小学部の6名のろう重複障害のある子どもたちで一つの学級をつくり、学級集団としての見通しのもてる日課、生活をベースとしながら、子どもの障害や発達の状況

ながっていききました。教師も、一人の間わりでは見えない子ども様を出し合い、励ましながらとりくんでいくことができました。そして、親同士のつながりもつくっていききました。重複部で発行している通信に、お母さんにこれまでの子育てをふりかえっての手記を毎号書いていただきました。

それぞれの子育ての苦労、経験などを共有し、やがて、ろう重複障害の仲間の作業所づくり運動に結びついていきました。障害のある人も、親も、職員も集団のなかで育っていくのです。ちょうど同じころ、県内のもう一つのろう学校でも同様の動きが始まりました。悩んでいるのは自分だけではない、なんとかろう重複障害の子どもたちの進路をきりひらいていきたいとの私たちの思いを励まし、確信となっていました。

実践の悩み、課題を深め合う

障害のある人が抱えている苦しみやことばに表せない思い、ねがいをどのようにつかみ、とりくんでいくのか。

たしかに制度の枠組みのなかでサービス等利用計画や個別支援計画が作成され、目に見える達成可能な支援目標を立

てとりくまれています。しかし、その人の本当のねがいを探り、そのなかでどんな力を育てていくのかを深めていくためには職員での集団的な振り返りや議論が必要です。

退職を機にいくつかの事業所のケース会議や研修に参加させてもらっています。3年目となる、あるグループホーム担当職員のケース検討会議は、気になる仲間、課題やねがいがかみにくい仲間を取り上げて、年に3回のケース検討を重ねながら、取り上げた仲間の障害、発達、成育歴を含めた生活などから仲間の全体像、支援の課題に迫ろうとしています。

60代のTさんは、聴覚障害に加え知的障害、身体障害があるために、未就学のまま成人期を迎え、20代後半から作業所に通い、30代後半に両親を亡くしホームで暮らしてきました。もともと能力はある人でカレンダーを頼りに予定を理解したり、一人で交通機関を使って仕事場に通っていましたが、最近、乗り物の割り込み、立小便などのちょっとした行動が続いています。ケース会議では、こうした行為は困ること、止めてほしいことがなかなか伝えきれないとの悩みが出ました。担当職員からは絵を描いて示すこ